

1 題材の目標及び題材構想

「葉物野菜の養液栽培」(6時間完了+α)

－養液栽培セット(ヤマザキ教育システム)－

(1) 題材の目標

- ① 養液栽培に関心をもち、意欲的に作業を進めることができる。(関心・意欲・態度)
- ② よりよい作物を作るために、育成計画や手入れの方法の工夫をすることができる。(工夫・創造)
- ③ 作物の生長を継続して観察・記録し、養液補充など適切な作業をすることができる。(技能)
- ④ 様々な作物の特性を知り、種類に応じた作業方法を理解することができる。(知識・理解)

(2) 評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度 …【関】	教科書などの資料を参考にしながら、作物を育てて収穫するという作業に進んで取り組もうとしている。
生活を工夫し創造する能力…【工】	効率のよい作業やよりよい品質にするためにどんな工夫ができるか考えている。
生活の技能 …【技】	作物を育てる上で大切である観察することを怠らないで記録し、適切に養液を補充している。学校で学んだことを生かして、家庭での育成計画を立てる。
生活や技術についての知識・理解 …【知】	養液栽培以外の栽培方法も知り、環境面や経済面などの目的に応じた育成方法を理解している。

(3) 題材構想

学習過程とねらい	時数	学 習 活 動	教師の支援と評価(☆)
1 育成計画の確認 ○養液栽培の方法を知り、栽培の条件を確認する。	2	○いろいろな栽培方法を理解する。 ・地元で行われている栽培方法を調べる。 ・土壌栽培と養液栽培の違いを考える。 ・養液栽培の特徴を知る。	・養液栽培についての理解を深めさせるために生徒からの質問を地元の専門家(水耕ネギ)に聞き、生徒に知らせる。 ☆これから進める学習に対し意欲をもち、土壌栽培と養液栽培を比べ疑問点を出すことができたか。 【関】
2 種まきと発芽 ○種まきの実施と発芽の仕組みを知る。	1	○実作業に入るとともに、発芽の仕組みを理解する。 ・種の育て方や液肥の扱い方の説明書きを見て、栽培の見通しをもつ。 ・スポンジを用いて、種を6つまく。 ・種子の構造と発芽の仕組みを知る。	・発芽しやすいようにスポンジの上端に種を植えさせる。 ☆きちんと発芽させるために発芽の仕組みを知り、種の位置や水の量を考え、種まきをすることができたか。 【工】
3 植え替え ○植え替えの実施と葉と根が生長する仕組みを知る。	1	○生長の良い物の一つを選んで植え替えるとともに、生長の仕組みを理解する。 ・6つの中から生長の良い物を2つ選び、培地に植え替える。 ・子葉や根が生長する仕組みを知る。	・順調に生長させるために苗を選ぶポイントや培地に移す注意点を知らせる。 ☆正しく培地に植え替えることができたか。 【技】
4 生長の観察と栽培への理解 ○観察から植物のはたらきや環境対応力を知る。	1	○定期的な観察記録から、植物の変化を見取る。 ・植物の働きと養分・水などのかかわりを知る。 ・環境に応じた植物の対応力を知る。	・植物の変化に気付きやすいように日当たりなどのポイントを知らせる。 ☆定期的に観察記録し、必要に応じて養液補充することができたか。 【技】 ☆自分や周りの作物の様子を見て植物の働きや環境対応力に気付くことができたか。 【知】
5 収穫とこれからの栽培方法 ○自分が育てた作物を収穫して家庭で味わう。 ○栽培を家庭生活に生かそうとする。	1	○本単元の学習をこれからの家庭生活に生かそうとするとともに、先進の栽培技術を知る。 ・家庭で栽培するときに気を付けることを学習したことから確認し、育成計画を立てる。 ・実際に行われている新しい栽培技術を知るとともに、その技術が地域とどんなかかわりがあるのかを知る。	・家庭でも同じように栽培できるように、養液栽培に適した葉物野菜や肥料を知らせる。 ☆学校での栽培経験を生かして、家庭での育成計画を立てることができたか。 【工】 ☆先端の栽培技術とその周りの地域社会や環境とのかかわりを知ることができたか。 【知】